

第 90 回関西実験動物研究会
彩る研究拠点－北大阪に注目

2. 基盤研実験動物開発研究室の紹介－特に基盤研動物資源バンクについて－

松田潤一郎((独)医薬基盤研究所 生物資源研究部 実験動物開発研究室)

私どもの医薬基盤研究所（基盤研）の実験動物開発研究室の歴史を遡りますと、1947年に創立された厚生省所管の国立予防衛生研究所（略して予研と呼んでいました）獣疫部（発足当時は田嶋嘉雄部長）の実験動物部門に辿り着きます。発足当初、予研は東大付属伝染病研究所（現在の医科学研究所）に間借りしており、その後1955年に品川区の海軍大学校跡地に移転し、さらに1992年には品川区から新宿区の新施設に移転しました。1997年に予研が国立感染症研究所と名称変更になるなど、さまざまな組織再編を経て、2005年春、私たちの研究室は大阪に設立された厚生労働省傘下の新しい研究所である基盤研に移動することとなりました。当研究室はこのように日本における実験動物学の草創期からの60年近い歴史を持ち、SPF動物の普及における実験動物の微生物学的統御や、生物学的製剤などの検定に利用される系統動物（ddY など）の作出など実験動物の品質向上に大きく寄与してきました。さらには世界的にも貴重な近交系モルモットの樹立や特殊動物の系統維持、さらに自然発症の疾患モデル動物の開発なども長年に亘って行ってきました。最近では、特に発生工学を応用して積極的に疾患モデル動物を開発し、さらには貴重な系統の胚・精子などの凍結保存も行っています。

さて、基盤研は、非公務員型の独立行政法人であり、厚生労働省所管の研究所では初めての研究開発・支援型の研究機関とのことで、創薬支援に特化した研究所として、昨春、大阪北部（北摂）の国際文化公園都市「彩都」に設立されました。研究所の目的として、医薬品技術及び医療機器等技術に関し、①共通的・普遍的な研究開発（基盤研究）、②研究開発の振興（研究費助成）、③試験研究用生物資源の研究開発等の業務を行うことにより、医薬品及び医療機器等の開発のための基盤の整備を図り、もって国民保健の向上に資することを目指すことを謳われています。このように基盤研では、研究所の大きな柱の一つとして「生物資源」があり、従来は厚生労働省傘下の各組織に分かれていた生物資源5部門、すなわち、国立医薬品食品衛生研究所に属していた細胞バンク、薬用植物及び、国立感染症研究所に属していた遺伝子バンク、霊長類、そして私たちの実験小動物が一つの研究所に統合されたことになり、医学・創薬を支える生物資源センターとしての発展が期待されています。

そこで、当研究室では基盤研において、新たな疾患モデル動物の開発や発生工学など関連技術の開発を行うとともに、疾患モデルを中心に実験動物の収集、保存、供給及び関連情報の発信などの実験動物研究資源バンク事業を本格的に開始することとしました。医学・創薬に真に役立ち、研究者にとって利用しやすく、要望にもできるだけ答えられるような動物資源バンクを構築したいと考えていますので、広くご意見、ご批判、さらにご支援を頂ければ幸いです。